

氏名	2025年年間業績
上尾信也	<p>【論稿】 「ジョングルールの声―「bon son」（よき音）と「dolce melos」（甘美なる調べ）にみる感情と音楽 1 「bon son」（よき音）編」、『紀要〈桐朋学園大学〉』51、49-72.</p>
朝治啓三	<p>【論稿】 「グロステストのリンカン司教区行政」『関西大学文学論集』74-4、139-169頁.</p> <p>【翻訳】 「ルイーズ・J・ウィルキンソン『忠誠から反抗へ―エレナ・ド・モンフォール、イングランド王ヘンリ3世の妹、イングランド王国の改革と戦争への道』」『関西大学東西学術研究所紀要』58、285-309頁.</p> <p>【新刊紹介】 N.Saul and N.Vincent ed., English Medieval Government and Administration, Essays in Honour of J.R. Maddicott, Pipe Roll Society, Boydell Press, Woodbridge, 2023, 『西洋中世研究』17、2025.12. pp.169-170.</p> <p>【その他】 「中世イギリス」『史学雑誌』134(5)、304-307頁.</p>
足立広明	<p>【単行本】 「ミケランジェロより千年早く―皇妃エウドキアの『ホメロス風聖書物語』（山田望・袴田玲・坂田奈々絵・山田順編『古代・中世キリスト教における女性イメージ』教文館の第5章として執筆：135―160頁）</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「魔術師と女性使徒―『殉教者キュプリアノス伝』と皇妃エウドキアのエージェンシー」『奈良史学』42、111-133頁.</p>
猪刈由紀	<p>【論稿】 「近世ケルンの巡礼兄弟会と死者の追悼: 伝承・記憶・史実」『國學院雑誌』126(12)、1-18頁.</p>
池田真弓	<p>【論稿】 "The "Trier I" copy of the Gutenberg Bible and the Early Mainz Printing Shops." Gutenberg-Jahrbuch 100, pp. 18-36.</p>

石田隆太	<p><b>【単行本】</b> 『天使の哲学：中世哲学入門講義』</p> <p><b>【雑誌論文・研究ノートなど】</b> 「天体からのアナロジーと天使の種：ボナヴェントゥラ、トマス、スコトゥス」『人文学』216、1-36頁. 「世界の始まりと時間：ジョン・ベッカムの場合」『中世哲学研究』44、77-94頁. 「第一質料はいかにして神と同一視されたのか：ディナンのダヴィド再考」『同志社哲学年報』48、67-81頁. 「天使の自己認識：トマス・アキナスの場合」『文化学年報』74、87-105頁. 「個体の数量化と抽象化：リユーベックのヘンリクスとトマス・アキナス」『古典古代学』17、1-13頁.</p> <p><b>【翻訳】</b> 「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第6問題（nn. 178-95）試訳」『筑波哲学』33、69-78頁（本間裕之との共訳） 「トマス・アキナス『定期討論集 悪について』第16問「悪霊について」第5項 試訳」『人文学』215、1-25頁.</p>
今井澄子	<p><b>【単行本】</b> 「ブルゴーニュ公シャルルの結婚式と祝宴の「豪華」ーブルゴーニュ宮廷の伝統と継承をめぐって」望月典子責任編集『ヨーロッパの宮廷と美術I 祝祭ー宮廷が演じたヨーロッパの夢ー』（ありな書房）11-44、287-292頁.</p> <p><b>【その他】</b> 「中世文化を作り、映し出す：第12章 美術と表象」『NewsPicks『西洋中世文化事典』を楽しむ！！』</p>
印出忠夫	『＜永遠のミサ＞ 西洋中世の死と奉仕の会計学』（教育評論社）
内川勇太	「古英語版オロシウスの地理的記述翻訳ー9世紀末ウエセックス王権の世界認識の解明に向けてー」『史流』50、69-89頁.
大黒俊二	<p><b>【雑誌論文・研究ノートなど】</b> ジョヴァンニ・アントニオ・ダ・ファイエ『自伝』をめぐって（3）『資料学の方法を探る』（愛媛大学「資料学」研究会）24、86-95頁.</p> <p><b>【その他】</b> 「エーコで読む「第3章 ことばと文字」、あるいは「第3章 ことばと文字」で読むエーコ」『『西洋中世文化事典』を楽しむ！！』 <a href="https://newspicks.com/topics/enjoyemec/?ref=news-body_15585232">https://newspicks.com/topics/enjoyemec/?ref=news-body_15585232</a></p>
太田原建	<p><b>【論稿】</b> 「ザーリア朝後期ザクセンにおける大公人事と〈界〉の力学ーズュップリンゲンブルク伯ロタールのザクセン大公推戴（1106年）ー」『西洋中世研究』17、99-116頁.</p>
大貫俊夫	<p><b>【単行本】</b> 『山川 世界史史料集』（共著、山川出版社）</p> <p><b>【その他】</b> 「時代の空気を吸いながら：16章 中世受容と中世研究」（Newspicks特集「『西洋中世文化事典』を楽しむ！！」）</p>
大宅明美	<p><b>【書評・新刊紹介】</b> 「中村美幸『百年戦争下のパリでひとびとはどう生きたか：「パリー市民の日記」（1405-49）から読み解く』」『社会経済史学』91-3、384-387頁.</p>

岡北一孝	<p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「アルベルティの理論と建築作品にみる「光」」、『カルチュラル・グリーン』、6、19-41頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】 「Jan L. de JONG, Tombs in Early Modern Rome (1400—1600). Monuments of Mourning, Memory and Meditation [Brill's Studies on Art, Art History, and Intellectual History, 65], Leiden/Boston, Brill, 2023」『西洋中世研究』17、156-157頁。 「Alina PAYNE (ed.), The Land Between Two Seas. Art on the Move in the Mediterranean and the Black Sea 1300 — 1700, [Mediterranean Art Histories, 5], Leiden/Boston, Brill, 2022」『西洋中世研究』17、170-171頁。</p>
尾形希和子	<p>【その他】 「地中海学会大会 研究発表要旨：西洋中世における櫓を背負う象の表象」『地中海学会月報』482、4頁。 「地中海世界の《復活》20：血と乳による復活 『フィシオログス』のペリカン」『地中海学会月報』484、表紙、8頁。</p>
岡本信照	<p>【分担執筆】 「『ドン・キホーテ』と『ペルシーレス』にみる季節名称をめぐって—黄金世紀は「五季」だったのか—」、片倉充造・佐竹謙一編『「ドン・キホーテ」とともに』（行路社）、pp.107-117。</p>
小澤実	<p>【単行本】 『ヴァイキング解剖図鑑』（監修、エクснаレッジ） 『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学：歴史を捉え、書き、編む』（佐藤雄基と共編、東京大学出版会） 『「立教大学教員が選ぶ西洋中世本」フェア・パンフレット』（丸善出版；非売品）</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「第三帝国のルーン学：ヘルムート・アルントの軌跡」中丸禎子・田中琢三編著『北欧ロマンとナショナリズム：内村鑑三・開拓・民族主義』（勉誠社）、243-266頁。 「アメリカのルーン碑文：移民・偽史・想像力」『歴史評論』902、70-84頁。 「第7章：平泉澄と西洋学知--「皇国史観」以前の平泉中世論再考--」小澤・佐藤雄基編『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学：歴史を捉え、書き、編む』（東京大学出版会）、223-247頁。 「「神の平和」と十字軍」『工芸青花』21、41-43頁。</p> <p>【翻訳】 ブランスラウ・ベディ（小澤実訳）「日本の大学におけるアイスランド語教育を歴史的に考える：最初の問題設定と考察」『日本アイスランド学会会報』44、64-68頁。 ウルヴァル・ブラガソン（小澤実訳）「スノッリの怒り—感情と中世の自己」『日本アイスランド学会会報』44、58-61頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】 「新刊紹介：池田さなえ著『笑いで歴史学を変える方法—歴史初心者からアカデミアまで—』」『洛北史学』27、100-101頁。 「2024読書アンケート」『読書アンケート2024』（みすず書房）、2-4頁。</p> <p>【その他】 「歴史創作の現場に聞く！佐藤二葉『アンナ・コムネナ』・アニメ『ヴィンランド・サガ』・歴史考証」（佐藤二葉・大谷哲と共著）『史苑』85(2)、123-167頁。 「2冊の菅原北欧神話論の刊行をめぐる余滴」『日本アイスランド学会会報』44、69-70頁。</p>
櫻田宗紀	<p>【論稿】 「教皇文書目録作成プロジェクトの現在: Regesta Pontificum Romanorum onlineとGallia Pontificia online」『西洋史学』279、93-98頁</p>
梶原洋一	<p>【単行本】 「聖人名と聖人暦」池上俊一、河原温編『聖人崇敬の歴史』（名古屋大学出版会）、349-369頁</p>
勝谷祐子	<p>【単行本】 Yuko Katsutani / Carola Hertel / Olivier Féraud (dir.), Le Concert des Anges : Représentations artistiques de la musique au Moyen Âge, cat. exp., Strasbourg, Bnu éditions, 2025.</p>
勝又崇	<p>【論稿】 Eine soziologische Wende und die Entstehung der Lehre vom guten alten Recht bei Fritz Kern, Zeitschrift für Neuere Rechtsgeschichte 46 (3/4) (2024), S. 177-196</p>

加藤磨珠枝	<p>【翻訳】 ルーシー・フリーマン・サンドラー『写本に描かれた本たち: 西洋中世からルネサンスにみる本の象徴性と実用性』(監修、白水社)</p> <p>【書評】 ヤシュ・エルスナー「古代末期のユーラシア美術におけるユートピア—天国、地獄、そしてもう一つの世界」『ポスト印象派とユートピア』永井隆則編(三元社)、36-59頁.</p>
加納修	<p>【翻訳】 「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳(3): 131-183節」『東方キリスト教世界研究』9、3-45頁(小坂俊介・村田光司・大谷哲氏と共訳)</p>
神谷貴子	<p>【論稿】「市民のあいだからこぼれ落ちてゆく人びと—中世後期におけるフリブールの女性・ユダヤ人・聖職者—」『比較都市史研究』44、11-29頁. 「排除する市民たちと排除される市民たち: 中近世スイス都市を事例として」『歴史学研究』1067、150-159頁.</p>
菊地智	<p>【翻訳】 「『アヴィニョンの神学者たちによる鑑定』教皇庁におけるエックハルト審問史料—解説と翻訳—」『古典古代学』17(筑波大学大学院人文社会科学研究群古典古代学研究室)、35-87頁.</p> <p>【論稿】 "The Spiritual Dialogue Sister Catherine – A Testimony of the Close Relation between Beguines and Dominicans in Fourteenth-century Strasbourg." <i>Studies in Spirituality</i> 33, pp. 163-180. 「リュースブルク思想研究史概観」『中世思想研究』67、87-100頁. 「リュースブルクの〈コモン〉思想の射程」『宗教研究』99(3)、25-48頁.</p> <p>【新刊紹介】 G.H. Gerrits (intro. &amp; transl.), <i>The Sisterbook of Master Geert's House, Deventer: The Lives and Spirituality of the Sisters, c. 1390—c. 1460</i> [Medieval Women: Texts and Contexts 33], Turnhout, Brepols, 2024. 『西洋中世研究』17、158-159頁.</p>
菊地重仁	<p>【論稿】 "Motivations and purposes of travels in the Carolingian age", in: Laury Sarti and Helene von Trott zu Solz (eds.), <i>Mobility in the Early Middle Ages, and beyond. Interdisciplinary Approaches – Mobilität im Frühmittelalter, und darüber hinaus. Interdisziplinäre Zugänge (Europa im Mittelalter 46)</i>, Berlin: De Gruyter, pp. 43-60.</p> <p>【書評・新刊紹介】 「拙著書評への応答」『史流』50、103-115頁.</p>
北館佳史	<p>【論稿】 「シトー会『大創立史』の例話における死と典礼」『紀要(中央大学文学部)』70/306、61-92頁. "The Life of Stephen as a Medium between Obazine Abbey and Regional Society", <i>Journal of the Institute of Cultural Sciences</i> 112, pp. 119-156.</p> <p>【単行本】 「聖遺物の奉遷・窃盗」池上俊一・河原温編『聖人崇敬の歴史』(名古屋大学出版会)、330-348頁.</p>
北村秀喜	<p>【論稿】 「13世紀末から15世紀前半ヴェローナにおける人文主義の探求についての第2報 — セネカ作『ルキリウスに宛てた倫理的書簡集』の伝承経路に関する考察」、『早稲田大学イタリア研究所 研究紀要』14、1-22頁. 「聖ヒエロニムスの書簡の伝承体系に関する探求 — 聖アウグスティヌスと交わされた書簡の場合」、『西洋中世研究』17、79-95頁. 「13世紀末から15世紀前半ヴェローナにおける人文主義の探求についての第二報—セネカ作『ルキリウスに宛てた倫理的書簡集』の伝承経路に関する考察」、『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』14、1-22頁.</p>
清野真惟	<p>【論稿】 「イタリア同盟の枠組みにおける秩序と「イタリア政治空間」概念——1454, 1455, 1456年の諸協定の再検討」『地中海学研究』48、61-85頁.</p>

久木田直江	<p>【単行本】</p> <p>'Holy Infirmary and Holy Holism in the Conventual Life of Helfta', in <i>The Power of Words in Late Medieval Devotional and Mystical Writing: Essays in Honour of Denis Renevey</i>, ed. by Rory Critten and Juliette Vuille (Turnhout: Brepols, 2025), pp. 25-42.</p>
草生久嗣	<p>【その他】</p> <p>「異端の眼, 異端を見る眼」(有田豊と共著) 特集序文『西洋中世研究』17、2-7頁.</p> <p>【論稿】</p> <p>「ビザンツ帝国の異端学」『西洋中世研究』17、23-32頁.</p> <p>【書評】</p> <p>Ioan-Gabriel Alexandru (ed.), Konstantinos Harmenopoulos <i>De haeresibus</i>:: Edition, Übersetzung, Anmerkungen (2022). <i>The Byzantine Review</i>, 7, pp. 245-251.</p> <p>Martin Illert, Presbyter Kozma, <i>Gegen die Bogomilen:: Orthodoxie und Häresie auf dem mittelalterlichen Balkan</i> (2021). <i>The Byzantine Review</i>, 7, pp. 240-244.</p> <p>「櫻井康人『十字軍国家』」『西洋史学論集』62、100-102頁.</p>
工藤義信	<p>【書評：新刊紹介】</p> <p>Koichi Kano, ed., <i>An Invitation to Chaucer's Cosmos. チョーサー巡礼：古典の遺産と中世の新しい息吹きに導かれて</i>(2022). <i>SELIM. Journal of the Spanish Society for Medieval English Language and Literature</i> 30 (1), 226-232.</p>
久米順子	<p>【書評：新刊紹介】</p> <p>Molina Figueras, Joan (ed.), <i>El Espejo perdido. Judios y conversos en la edad media (= The Lost Mirror. Jews and Conversos in Medieval Spain)</i> (2023). 『西洋中世研究』17、168-169頁.</p>
黒川正剛	<p>【単行本】</p> <p>『霊界の書ー世界の幽霊・怪奇譚・超常現象』(監修、グラフィック社)</p> <p>「教会とジェンダー」甚野尚志・踊共二編『キリスト教から読み解くヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房)、252-255頁.</p>
後藤里菜	<p>【単行本】</p> <p>「第4章 正統と異端」甚野尚志・踊共二編『キリスト教から読み解くヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房)、93-112頁.</p> <p>「第2章 盛期中世～後期中世」池上俊一・河原温編『聖人崇敬の歴史』(名古屋大学出版会)、68-98頁.</p> <p>「第9章 西洋中世の「敬虔な女性たち」山田望・袴田玲・坂田奈々絵・山田順編『古代・中世キリスト教における女性イメージ』(教文館)、239-258頁.</p> <p>【書評・新刊紹介】</p> <p>「J・ハーメルス、A・バルディン、C・ドゥラメイユール編、青谷秀紀訳『女の顔をした中世——ベルギー・オランダの都市と女性たち——』」『史学雑誌』134(10)102(1646)-104(1648)頁.</p>
小林亜沙美	<p>【単行本】</p> <p>「列聖」甚野尚志・踊共二編著『キリスト教から読み解くヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房)、137-141頁.</p> <p>【論稿】</p> <p>「日本における西洋史学のはじまり：箕作元八～ドイツ～西洋中世史学」『吉備地方文化研究』(吉備地方文化研究所)35、139-158頁.</p> <p>【翻訳】</p> <p>「ランベルト・フォン・ヘルスフェルトの『編年誌』1076年の章 邦訳その2」『就実大学史学論集』(就実大学総合歴史学科)39、131-157頁.</p> <p>【書評・新刊紹介】</p> <p>Christopher Kast, <i>Der Papsthof auf Reisen: Die Reisen der römischen Kurie in den Pontifikaten von Martin V. bis Pius II. (1417–1464)</i> (2024). <i>Mediaevistik. International Journal of Interdisciplinary Medieval Research</i> 38, pp. 235-237.</p>
小林繁子	<p>【単行本】</p> <p>「大学法学部の法鑑定ー理論と法実践交錯の場としてー」田島篤史編著『魔女を糺すー中・近世ドイツの法実践と悪魔学』、(森と出版)6-26頁.</p> <p>「第10章 魔女迫害とキリスト教」甚野尚志・踊共二編著『キリスト教から読み解くヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房)、233-251頁.</p> <p>【書評・新刊紹介】</p> <p>「前田星「ヨーロッパ近世刑事司法の中の魔女裁判(一)～(九・完)」」『法制史研究』(74)、406-409頁.</p>

佐伯(片倉)綾那	<p>【書評・新刊紹介】 「Maximilian C. G. LAU, Emperor John II Komnenos: Rebuilding New Rome 1118-1143 [Oxford Studies in Byzantium], Oxford, Oxford University Press, 2023」『西洋中世研究』17、165-166頁.</p> <p>【その他】 「ビザンツ帝国編9：ケカリトメネ修道院にみるアンナ・コムネナと女性家族のつながり」『『西洋中世文化事典』を楽しむ！！』(NewsPicks)</p>
櫻井康人	<p>【単行本】 「「十字軍」とは何か？—12世紀の公会議・教会会議決議録より—」 図師宣忠／中村敦子／西岡健司編著『史料と旅する中世ヨーロッパ』(ミネルヴァ書房)、120-135頁.</p> <p>【論稿】 「貨幣封から見る十字軍国家の社会構造(1192～1291年)」『ヨーロッパ文化史研究』26、99-122頁.</p>
佐々木博光	<p>【単行本】 「西ヨーロッパ 福祉と自立」金澤周作他編『福祉の世界史』(有斐閣)、188-202頁. 「『虚偽と扇動：黒死病の流行とユダヤ人虐殺(pogrom)、1348-1351年』に対する討論文」『噂とフェイクニュース(誤情報)の歴史』(第25回日韓・韓日歴史家会議)、166-170頁.</p> <p>【その他】 「虚偽と扇動：黒死病の流行とユダヤ人虐殺(pogrom)、1348-51年に対する討論文」『嘘とフェイクニュース(誤情報)の歴史』(第25回日韓・韓日歴史家会議)、166-170頁.</p>
薩摩秀登	<p>【論稿】 「中世後期および近世初頭モラヴィアのラントフリート」長與進・篠原琢・中澤達哉編『「小さな国」からの問いかけ チェコとスロヴァキア歴史と文化』(績文堂)1-18頁.</p>
佐藤彰一	<p>【単行本】 『フランス中世史Ⅰカペー朝の革新』(名古屋大学出版会)</p>
佐藤猛	<p>【書評・新刊紹介】 「高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較—』」『西洋史学』279、113-115頁.</p>
佐藤公美	<p>【単行本】 「「離れた比較史」の可能性—一日欧中世比較封建制後の方法と課題」小澤実・佐藤雄基編著『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学—歴史を捉え、書き、編む』(東京大学出版会)、117-159頁.</p>
柴田隆功	<p>【書評・新刊紹介】 「シュテファン・ヴァインフルター著、津山拓也訳『カノッサ「屈辱」の中世史』八坂書房、二〇二四・八刊、四六、三一二頁、三二〇〇円」『史学雑誌』134(8)、105-106頁.</p>
渋谷聡	<p>【書評・新刊紹介】 高澤紀恵、ギヨーム・カレ編『「身分」を交差させる—日本とフランスの近世』</p>
嶋田英晴	<p>【書評・新刊紹介】 「神田愛子『マイモニデスにおける神への道程』」『宗教研究』99-3、81-86頁.</p> <p>【論稿】 ゲニザ文書「T-S 20.37」の解説付き「翻訳」『ユダヤ・イスラエル研究』39、32-39頁.</p>
甚野尚志	<p>【論稿】 「歴史家・朝河貫一への旅(5)—マルク・ブロックとの文通と「封建制」理解の相違—」『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究—』15、1-17頁.</p> <p>【単行本】 『キリスト教から読み解くヨーロッパ史』(踊共二との共編著)</p>

<p>図師宣忠</p>	<p><b>【単行本】</b> 『史料と旅する中世ヨーロッパ』（中村敦子・西岡健司との共編、ミネルヴァ書房）</p> <p><b>【論稿】</b> 「中世への「窓」としての異端審問記録」『フェネストラ：京大西洋史学報』9、9-26頁。</p> <p><b>【新刊紹介】</b> 「中村美幸著『百年戦争下のパリでひとびとはどう生きたか—『パリー市民の日記』（1405-49）から読み解く—』ミネルヴァ書房、2024年6月刊『都市史研究』12、132-133頁。 「JOHN H. ARNOLD, The Making of Lay Religion in Southern France, c. 1000-1350, Oxford, Oxford University Press, 2024, 546p., £130.00」『西洋中世研究』17、149頁。</p>
<p>瀧本佳容子</p>	<p><b>【論稿】</b> 「カステイリャ王アルフォンソ10世賢王の〈世俗古謡〉」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』57、17-33頁。 「Marqués de Santillana の Proverbios —危機の時代における君主の鑑」日本英文学会第97回大会（2025年度）、部門別シンポジア「第5部門：知恵と助言の文学—中世後期イングランドとイペリアからの視点」東京大学本郷キャンパス、2025（令和7）年5月31日（土）、Proceeding</p>
<p>田口正樹</p>	<p><b>【論稿】</b> 「メロヴィング朝フランク期におけるローマ法の変容」『国家学会雑誌』138(3/4)、1-43頁。 「20世紀前半日本の西洋法史学」『法の思想と歴史』5、1-82頁。 "Die Königsgerichtsbarkeit und die Gerichtsstandsprivilegien im deutschen Spätmittelalter (1273-1400)," Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung 142, pp. 1-77.</p> <p><b>【新刊紹介】</b> 「Michael BORGOLTE, Königin in der Fremde: Frühmittelalterliche Heiratsmigration und die Anfänge der europäischen Bündnispolitik, Göttingen, Wallstein Verlag, 2024, 472p.」『西洋中世研究』17、152-153頁。 「Martin WAGENDORFER (ed.), Das Notizbuch Kaiser Friedrichs III: Vorträge der interdisziplinären Tagung vom 17. und 18. November 2022 [Monumenta Germaniae Historica, Schriften, Bd. 83], Wiesbaden, Harrassowitz Verlag, 2024, ix+338p.」『西洋中世研究』17、173-174頁。 Daniel LUGER, Das ‚Königliche Gerichtsbuch‘ des Michael von Pfullendorf aus den Jahren 1442 bis 1451. Einführung und Edition. Mit einem Vorwort von Bernhard DIESTELKAMP, (Quellen und Forschungen zur Höchsten Gerichtsbarkeit im Alten Reich, Bd. 77), Wien/Köln 2022, Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung 142, pp. 445-447.</p>
<p>田島篤史</p>	<p><b>【単行本】</b> 『魔女を糾す—中・近世ドイツの法実践と悪魔学—』（森と出版） 『四国遍路と世界の巡礼—最新研究にふれる八十八話—（下）』</p>
<p>田中圭子</p>	<p><b>【論稿】</b> 「書簡作成術と修辞学教育 ～15世紀後半のインゴルシュタット大学の事例より～」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』62、69-76頁。</p>
<p>田辺加恵</p>	<p><b>【論稿】</b> "Roma y la imagen de Santiago el Mayor en Santos no Gosagyo: análisis de su simbolismo y propósito" Metrópolis: Santiago y Roma, 900 años de historia. Actas del XIII Congreso Internacional de Estudios Jacobeos, Klaus Herbers (coord.), Santiago de Compostela: Turismo de Galicia, pp. 575-587.</p>
<p>田辺清</p>	<p><b>【単行本】</b> 『イタリア・ルネサンスと東洋—美術にみる東西文化交流（春風社）』</p>
<p>千葉敏之</p>	<p><b>【単行本】</b> 「天使にして聖人—大天使ミカエル崇敬」池上俊一・河原温編『聖人崇敬の歴史』（名古屋大学出版会）、435-455頁。 『生を見つめる翻訳』（久野量一、真島一郎と共編、東京外国語大学出版会）</p>
<p>中堀博司</p>	<p><b>【単行本】</b> 「ブルゴーニュ公国—その誕生から消滅まで」川成洋編著『ハプスブルクの文化を知るための71章』（明石書店）、18-23頁。</p>

根津由喜夫	<p>【単行本】 根津由喜夫『ビザンツ文人伝—言葉で戦った男たちの矜持と憂愁』（白水社）</p>
浜野明大	<p>【単行本】 Text und Bilder in der Altenglischen und Altsächsischen Genesis. Eine Untersuchung zur Handschrift Junius 11, S. 637-682. In: Altsächsisch. Beiträge zur altniederdeutschen Sprache, Literatur und Kultur (Ergänzungsbände zum Reallexikon der Germanischen Altertumskunde, Band 146), (De Gruyter) Berlin/ Boston 2025</p>
平野智洋	<p>【論稿】 「ミハイル・パナレトス『トラペズスの諸皇帝について』翻訳解説 (I)」『東海史学』59、37-54頁.</p>
藤崎衛	<p>【単行本】 「列聖手続きと教皇の関与」『聖人崇敬の歴史』池上俊一、河原温編（名古屋大学出版会）、456-477頁.</p> <p>【翻訳】 ケーレン・ヴィーゲン、キャロライン・ウィンタラー『Time in Maps 地図に刻まれた時間』藤崎衛監訳、松川琢哉訳（ニュートンプレス）</p> <p>【論稿】 「中世史家が見るコンクラーベをくぐり抜けた新教皇」『教養学部報』（東京大学教養学部）666、1、4頁. 「ヨーロッパ社会を理解するための教会史研究」『山川歴史PRESS』26、20-24頁. 「ローマ教皇の2000年史（上）古代～中世 「普遍」の権威、世俗と対峙 批判乗り越え欧州文明支える」『日本経済新聞』5月13日、40面</p>
藤田風花	<p>【論稿】 （研究ノート）「『ただひとりの羊飼ひ、ただひとつの群れ』？—ヴェネツィア領キプロスの多宗派性と対抗宗教改革—」『洛北史学』27、45-65頁. 「ヴェネツィア領キプロスにおける『プロテスタント』と異端審問—東地中海世界と宗教改革—」『西洋史学』279、1-20頁.</p>
舟場大和	<p>【論稿】 舟場大和「《ポルティナリー祭壇画》の服飾表現と注文背景—ブルゴーニュ宮廷」『西洋中世研究』17、117-147頁.</p>

堀越宏一	<p><b>【単行本】</b> 『図説・中世ヨーロッパの城』（河出書房新社）</p>
前田星	<p><b>【単行本】</b> 「近世ドイツにおける悪魔学と刑事法学の交錯：17C末～18C初頭の学位論文から」田島篤史編『魔女を糺すー中・近世ドイツにおける法実践と悪魔学』（森と出版）、63-88頁.</p>
松根伸治	<p><b>【論稿】</b> 「ガンのヘンリクスにおける意志の自己運動ー『任意討論集』第9巻5問」『中世哲学研究 VERITAS』44、154-170頁.</p>
松本涼	<p><b>【単行本】</b> 「史料への扉1 アイスランド・サガ：過去の真実を物語る」図師宣忠・中村敦子・西岡健司編著『史料と旅する中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房）、62-65頁. <b>【書評・新刊紹介】</b> 「阪西紀子著『北欧中世史の研究ーサガ・戦争・共同体ー』」『西洋史学』278、76-78頁. <b>【その他】</b> 「【研究交流会報告】アイスランド中世文化と現代」『東海大学紀要文化社会学部』14、183-191頁. 「西洋中世学会書店：⑤北欧神話からヴァイキングへ - 漫画の想像力」NewsPicks『西洋中世文化事典』を楽しむ！！</p>
三木勲	<p><b>【論稿】</b> 「アルベルティの建築理論における装飾と絵画の関係性」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』65, pp. 389-392. <b>【その他】</b> 「アルベルティの建築理論における自然の模倣の意味：三大造形芸術統一の観点から」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2025, pp. 141-142. <b>【新刊紹介】</b> 「長尾重武著『ピラネージ 幻想の建築家』」『建築史学』84, 198-202.</p>
三佐川亮宏	<p><b>【書評・新刊紹介】</b> 「Hans-Werner Goetz, Die Chronik Reginos von Prüm. Geschichtsschreibung, Geschichtsbild, und Umgang mit Zeit und Vergangenheit im frühen Mittelalter, (Libelli Rhenani. Schriften der Erzbischöflichen Diözesan- und Dombibliothek zur rheinischen Kirchen- und Landesgeschichte sowie zur Buch- und Bibliotheksgeschichte, 82). Erzbischöfliche Diözesan- und Dombibliothek mit Bibliothek St. Albertus Magnus, 2022」『西洋中世学』17、159-160頁.</p>
向井伸哉	<p><b>【単行本】</b> 「西欧中世の「普通の文書／灰色の文書」論ー自治体会計簿を中心に」春田直紀編『中世地下文書論の方法と実践』（勉誠社）、433-456頁.</p>
武藤奈月	<p><b>【論稿】</b> 「過去、現在、未来ー12世紀の物語における墓ー」『フランス語フランス文学研究』127、47-61頁.</p>
村田光司	<p><b>【論稿】</b> "Progress Report on the Laconian Churches' 3D Survey Project: The Spatial Hub 3D Scholarly Edition." The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences XLVIII-M-9-2025, pp. 579-585. (Ryo Higuchi, Elena Ota, Kazufumi Takeda, Keitaro Shimizuとの共著) <b>【翻訳】</b> フィリップ・ボジャー「鉄器時代に想定される三つの世界システムから単一のアフロ・ユーラシア世界システムへ」『史苑』85(1), 101-154頁（佐藤彰一との共訳） フィリップ・ボジャー「十六世紀以前のユーラシア・アフリカ世界システムにおけるインド洋」『史苑』85(1), 101-154頁（佐藤彰一との共訳） 「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳 (3): 131-183節」『東方キリスト教世界研究』9, 3-45頁（加納修, 小坂俊介, 大谷哲との共訳） <b>【書評・新刊紹介】</b> 「ビザンツ帝国の転換期を同時代の目を通じて読む」『図書新聞』3683, 2頁. Christian Gastgeber, Byzantinische Soziographik: Der Griechische Schreiber und seine Handschrift. 『西洋中世研究』17, 157-158頁.</p>

村松綾	<p><b>【論稿】</b>  「中世ヨーロッパの祭礼行列—君主の入市式adventus regis—」『金沢美術工芸大学紀要』69、43-69頁。  「アメルバッハ・キャビネット—コンテキスト分析による原秩序類推の試み—」『金沢美術工芸大学紀要』69、71-92頁。</p>
山口隆介	<p><b>【論稿】</b>  「トマス・アキナスの聖書註解における愛概念研究」『聖泉論叢』（聖泉大学人間学部紀要）32、21-36頁。  「ニーグレンのアガペー概念とトマス・アキナスのカリタス概念」『聖泉論叢』（聖泉大学人間学部紀要）32、37-49頁。  「敵を愛すること：トマス・アキナス、渡辺和子、本田哲郎」『マラナタ：京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要』31、31-48頁。  「「あなたたちの敵を愛せ」—トマス・アキナス『マタイ福音書講解』読解の試み」『中世思想研究』67、37-50頁。  「トマス・アキナスにおけるアガペとエロス」『宗教と倫理』25、93-106頁。</p>
横倉源	<p><b>【その他】</b>  細田守監督最新作『果てしなきスカーレット』ラテン語監修</p>
横山安由美	<p><b>【その他】</b>  「シャルル・ドルレアンにおける他者なき「老い」」『立教大学フランス文学』54、71-86頁。</p>
吉川文	<p><b>【論稿】</b>  「アルファベット音名成立期における中世の音楽理論書でのギリシャ音名の役割」『音楽学』71(1)、17-30頁。  <b>【新刊紹介】</b>  「Vincenzo BORGHETTI and Alexandros Maria HATZIKIRIAKOS (eds.), The Media of Secular Music in the Medieval and Early Modern Period (1100-1650)」『西洋中世研究』17、151-152頁。</p>
芳野明	<p><b>【翻訳】</b>  ミラード・ミース『ルネサンス美術における南と北：イタリア絵画とネーデルラント絵画の諸問題』（中央公論美術出版）</p>
渡邊裕一	<p><b>【論稿】</b>  「中世後期アウクスブルクにおけるユダヤ共同体と「包摂する暴力」（特集：中近世キリスト教世界における「包摂する暴力」—地中海とアルプス以北—）」『西洋史学論集』62、50-53頁。  <b>【翻訳】</b>  「〈史料解題・翻訳〉アレクサンダー・ベルナーの救貧制度調査報告記(3)—ウルムとメミンゲン—」『エクフラシス』15、74-78頁。  <b>【その他】</b>  「2024年の歴史学界—回顧と展望—ヨーロッパ（中世—中東欧・北欧）」『史学雑誌』134(5)、299-303頁。</p>